

春の生きもの

暖かくなり春を迎える北の丸公園では、冬の間眠っていた動植物が次々と動き始めます。さまざまな草木の花が開花し、鳥たちは子育てのために忙しく動き回る季節です。

北の丸公園では右表に示す多くの生物が生息しており、千代田区内でも生物の多様性が高い場所です。

春の公園内は様々な植物の花を観察できます。これらの花にはアゲハなどのチョウの仲間が多く集まります。また、朝の公園内では、シジュウカラやキビタキなどの野鳥のさえずりが響いています。日中になると、冬眠から目覚めたヘビやトカゲ等の爬虫類が陽の当たる園道によく出てきます。

項目	種数	希少種
植物	719種	17種
鳥類	51種	22種
水生生物	49種	14種
両生類・爬虫類	9種	7種
陸産貝類	30種	2種
昆虫類	957種	17種

菌と共生する植物

公園内の林にはキンラン、ギンラン、ササバギンランを見ることができます。これらのラン科の植物は地中の菌と共生して生きているため、特定の菌がいる場所にしか生育できません。他の場所に移すと枯れてしまう繊細な植物なので、さわらずに見守ってください。



ギンラン
ラン科キンラン属



キンラン
ラン科キンラン属



ササバギンラン
ラン科キンラン属



スズメ スズメ科スズメ属



カイツブリ カイツブリ科カイツブリ属



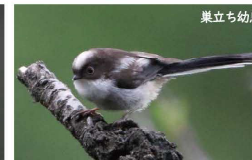
シジュウカラ シジュウカラ科シジュウカラ属

鳥類の子育て

4～5月は多くの鳥類が子育てを行います。公園内でも巣材や餌を集める様子や巣立ち幼鳥などを観察することができます。種により巣立ち時期はやや異なり、公園内ではエナガは4月、シジュウカラは5月に巣立ち幼鳥を多く観察できます。鳥たちを驚かせないように、離れたところから見守ってあげてください。



モンシロチョウ シロチョウ科モンシロチョウ属



エナガ エナガ科エナガ属



キビタキ ヒタキ科キビタキ属



ノアザミ キク科アザミ属



ナナホシテントウ テントウムシ科Coccinellidae



アオダイショウ ナミヘビ科ナメラ属



カラスアゲハ アゲハチョウ科アゲハチョウ属



ヒガシニホントカゲ トカゲ科トカゲ属



キムネクマバチ ミツバチ科クマバチ属

春

北の丸公園の生き物 ～環境別～

Spring Ver.

多くの生き物は、種ごとに異なる資源（食べ物、生息場所、活動時間など）を利用して生活しています。北の丸公園には樹林、草地、水辺など様々な環境があるため、公園全体では沢山の種類の生き物が確認されています。



～アズマヒキガエルの産卵・上陸～

早春の2～3月頃、アズマヒキガエルは公園内の池へ集まり産卵します。5月頃、卵からかえり成長したオタマジャクシからは手足が生え、一斉に陸へ上がる様子が観察できます。都区部でも数少ない繁殖地のため、公園内で探してみてください。ただし、本種は天敵から身を守るために皮膚から毒を分泌するため素手で触ったり、触った手で目を擦らないでください。

●公園内は採集禁止です。
●園路から観察してください。



～草花に集まる昆虫～

春の公園内ではタンポポやツツジをはじめ多くの種類の花が咲き、それらにはセイヨウミツバチなどのハナバチ類、モンシロチョウなどのチョウ類、コアオハナムグリなどの甲虫類など、様々な昆虫が集まってきます。花粉や蜜を求めやってくるこれらの昆虫の多くは、花から花へ移動する中で花粉を運び、植物の受粉を助ける重要な役目を果たしています。

草地



樹林



～鳥類の渡り～

多くの鳥類は春と秋に渡りを行い、1年間で繁殖地と越冬地を往復します。春の公園内ではキビタキやヒンズイの他、センタイムシクイやクロジ等の希少種も確認されており、都区部に残された大きな緑地として、渡り鳥の重要な休憩場所となっています。また、ヒヨドリは公園内で1年中見られますが、渡る個体もいるため、夏と冬では個体が入り替わっているかもしれません。

水辺 WaterFront

草地 GrassLand

樹林 Grove



周辺の情報はこちらへ

環境省
Ministry of the Environment

発行：皇居外苑管理事務所 2024（令和6）年2月